

サッカー競技実施要項

1. 主 催 鹿児島工業高等専門学校
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
2. 主 管 九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟サッカー競技専門部
3. 後 援 始良市、始良市教育委員会
(一社)九州サッカー協会、(一社)鹿児島県サッカー協会
4. 大会期日 令和4年7月15日(金)・16日(土)・17日(日)
(予備日 7月18日(月))
5. 大会会場 ビーラインスポーツパーク始良陸上競技場・人工芝グラウンド
6. 参加資格
 - (1) (公財)日本サッカー協会に加盟登録(第一種)されている九州沖縄地区国立高等専門学校であり、その団体の一員として個人登録された学生とする。
 - (2) 外国人留学生及び編入学生のエントリー数は6名以内とする。そのうちで同時に試合に出場できるのは3名以内とする。
7. 競技規則
 - (1) (公財)日本サッカー協会サッカー競技規則(2021/22年度)並びに本大会実施要項による。
 - (2) 競技開始前に最大限9名までの交代要員の氏名を通告しておき、そのうちから5名まで交代することができる。ただし、延長戦に入ったときには、交代要員を使い切っている、いないにかかわらず、さらにもう1人の交代要員が使えるものとする。
 - (3) 退場を命じられた選手は、次の1試合に出場できない。それ以後の処置については本大会の規律委員会で決定する。なお、本大会中、警告を2度受けた選手は、次の1試合に出場できない。
8. 競技方法
 - (1) 9又は10校によるトーナメント方式とする。
 - (2) 試合時間は80分(ハーフタイムは10分)とし、勝敗が決しないときは20分延長を行う。それでもなお決しないときは、PK方式により勝敗を決定する。ただし、決勝戦の試合時間は70分とする。
 - (3) 3位決定戦は実施せず、両校ともに3位とする。ただし、全国高専大会を九州沖縄地区が担当し出場校が3校になる場合は、同大会開催校の成績に関わらず3位決定戦を実施する。その場合、競技方法は決勝戦に準じるものとする。
 - (4) 令和3年度に実施した九州高専体育大会(サッカー競技)代替大会の優勝校を第1シード、準優勝校を第2シード、九州高等専門学校(U-19)サッカー大会の優勝校を第3シードとする。ただし、上位シードと重複する場合は、U-19大会の成績を繰り上げることとする。
9. チーム人員
参加申込書に記載するチーム人員は、引率者1名、監督1名、主務1名、記録員1名、選手20名を限度とする。ただし、試合前に提出するメンバー表に、チーム役員(引率者、監督及び

主務を含む)として記入されている者は試合ベンチに入ることができる。その際チーム役員の上限は6名とする。

10. 選手の用具

- (1) ユニフォーム(シャツ、ショーツ、ソックス)は、正のほかに、副として正と異なる色のユニフォーム(シャツ、ショーツ、ソックス)を参加申込書に記載し、必ず携行すること。
- (2) 背番号は1番から20番までとし、参加申込書に登録された選手固有の番号を付けること。正・副のユニフォーム同様とする。また、背番号は見やすいものとする。
- (3) 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別し難いと判断した時は、両チーム立ち合いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。
- (4) 前項の場合、主審は、両チームの各2組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。

11. 表彰

- (1) 優勝以下3位までの入賞校には、賞状を授与する。
- (2) 優勝チームには、優勝杯を授与し、次回まで保持させる。
- (3) 優秀選手には、賞状を授与する。

12. その他

- (1) 登録選手の変更は、所定の用紙(選手登録変更届用紙)に記入し、監督者会議に提出すること。それ以後の変更は認めない。なお、背番号の変更は認めない。
- (2) 選手の競技中の負傷については、開催校が応急処置を施すが、その後の処置は当該校で行うこと。
- (3) 本大会の登録選手は、(公財)日本サッカー協会選手証と健康保険証及び独立行政法人日本スポーツ振興センター所定の用紙を持参すること。試合前のメンバー表提出のとき、出場選手全員の「選手証」を一緒に提出すること。なお、「選手証」とは、(公財)日本サッカー協会WEB登録システム「KICKOFF」から出力した選手証・登録選手一覧を印刷したものである。
- (4) 大会参加に際して提供される個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。
- (5) 別紙「第59回(令和4年度)九州沖縄地区高専体育大会サッカー競技における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を遵守すること。
また、大会会場の新型コロナウイルス感染拡大防止対策方針に従い、感染拡大防止に最善を尽くすこと。

第 59 回（令和 4 年度）九州沖縄地区高専体育大会サッカー競技における
新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

1. <会場、更衣室、休憩・待機スペース等>

換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う必要がある。具体的には、換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。

更衣室、休憩・待機スペースは感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。更衣室や、休憩スペース、待機スペース（招集場所）について、以下に配慮して準備すること。

- ① 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する。
- ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。

2. <手洗い場所の確保>

- ① 会場では手洗いをこまめに行えるようにする。
- ② 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ③ 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- ④ できるだけ手洗い場を確保する。
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのマイタオルの持参を徹底する。
※布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。
- ⑥ アルコール等の手指消毒剤を用意する。

3. <洗面所（トイレ）>

洗面所（トイレ）についても感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。利用する洗面所（トイレ）について、以下に配慮して管理すること。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する。
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- ③ 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ④ 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのマイタオルの持参を徹底すること。
※布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。

4. <ベンチ関係について>

- ① ベンチで間隔を空けて座れるよう椅子を設置し、ベンチに留まる場合は必ずマスクを着用する。
- ② 一日に同会場で複数試合を行う場合は、各チームで試合終了毎にベンチの消毒を行うよう周知徹底する。消毒の際は、必ずビニール手袋を装着させること。
- ③ 消毒液、ペーパータオル、ビニール手袋、ゴミ処理用の袋は運営本部が準備するが、使用後のゴミは各チームが持ち帰ること。

5. <観客の管理>

観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとることを求める。また、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知する。

各チームは大会開催会場が指定する施設利用者名簿をとりまとめ、主催校へ提出する。なお、施設利用者名簿には応援者を含めた全ての入場予定者を記入するものとする。

6. <各チームの選手・スタッフ等の健康管理>

(1) 事前対応（九州高専連盟の様式を活用）

各チームが健康チェックシートによる体調チェックを実施し、当日参加者全員の名簿を付した健康チェックまとめを運営本部に提出する。

参加者の名簿、当日の検温、症状チェックを必ず実施すること

① 氏名・体温・症状チェック

② 大会前2週間における以下の事項の有無についても確認する。

- 平熱を超える発熱
- 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
- だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- 臭覚や味覚の異常
- 体が重く感じる、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(2) 事後対応

会場責任者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、競技会当日に参加選手・スタッフから提出された検温確認表を、保存期（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存しておく。

競技会終了後3日以内に、各チームの感染対策責任者に連絡を取り、具合の悪い選手・スタッフがいないか確認する。

7. <その他各会場、各チームで配慮すること>

(1) 飲食物の提供時

運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を参加者に提供する際は、以下に配慮して行うことを原則求める。

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。
- スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する。（同じペットボトル等を複数人で利用しない。）
- 果物等の食品については、同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行う。
- 飲食物を取り扱うスタッフに必ずマスクと手袋を着用させる。

(2) ゴミ等の廃棄

鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。また、マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

(3) 移動・宿泊

- 宿泊は原則一人一部屋とし、各チームが感染防止策を整備し、遵守する。
- 貸切バス等での移動は、過密乗車にならないよう運行方法を工夫する。

(4) 審判関係について

審判関係については以下の準備を行うこと。

- 控え室を利用する場合は広さにはゆとりを持たせ、審判員同士が密になることを避ける。換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を開けっ放しにして常時換気を行う。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、別室を用意する、又は外部にテントを設置する措置を講じる。滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する。
- 審判員はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。
- 審判員同士のミーティングは会場で3密とならないスペース等を探して実施する。

8. <応援について>

競技会に応援者を入れる場合には、応援エリアにおいて3つの密を避ける対応が求められる。

- 大声での声援や大旗を使つての応援は行わない。
- 場内ではそれぞれ2mの間隔を保ち、ハイタッチ、抱擁、肩を組むなどの行為は控える。

9. <チームへの伝達事項>

会場責任者はMCM（実施する場合）に出席し、運営に関わる注意事項、チームへの依頼事項として以下の項目を参加チームに伝えること。

- 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない
- 両チームベンチへの挨拶は距離をとっておこなうこと。
- 円陣はしない。
- 倒れた選手に手を貸さない。
- 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない。
- ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない。
- 口に含んだ水を吐かない。
- ボトルを共有しない。
- クーラーボックス等を利用する場合は、手袋やマスクを着用して利用する。タオルを共有しない。
- ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する。
- ベンチではマスクを着用し、会話を控える

※上述の伝達事項は、参加チームが競技会参加にあたり留意すべき事項でもある。

10. <メディア対応における注意事項>

(1) 試合会場のメディア設営

競技者とメディアの不要な接触を避けるためのメディア動線を作成し、以下に留意して設営を行う。

- 記者室や記者席、記者会見場では、各記者が前後左右1.5m～2m間隔で座ることができるよう、座席を配置する。

- 記者室、記者会見場の入口にアルコール消毒液を設置し、全てのドア及び窓を開けっ放しにする。
- 取材中、選手取材者が2 mの距離を保つ。

(2) 当日のメディア運営

(ア) 以下の事項に該当する場合は入場を見合わせる

- 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(イ) 以下の事項を当日遵守するように本部で伝える

- 試合会場の入り口又は本部で名前、連絡先を記入してもらいその場で検温をする
- 試合会場の設備に合わせて、3つの密にならないようにする
- 常時マスクを着用し、不必要な会話を控える。
- 代表質問を行うなど、取材者の人数も必要最小限となるように調整する。代表質問を行うなど、取材者の人数も必要最小限となるように調整する。
- 選手との距離は2 m以上取り、取材者同士も、最低1 m間隔を保つ。
- できるだけ短い時間で取材を終える。

以 上